

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2022年
6月27日(水)
第176号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

このニュースは、東京の自治体保育労働者運動実行委員会のニュースを転載させていただきました。

5月29日 自治体に働く保育労働者の東京集会を開催。

YouTubeを含め200人に迫る参加！

自治体に働く保育労働者の東京集会は、5月29日（日）に会場とWEB開催でのハイブリッド方式で行われました。午前中の全体会は、会場38名Zoom28接続Youtube144視聴の参加がありました。基調報告の中では佐々木事務局長から保育情勢が語られ、コロナ禍だからこそ公立の存在意義をさらに訴えていく必要性、保育現場の実態を現場で働く私たちが伝えていく大切さを再認識しました。

記念講演は塩崎美穂氏。「5歳児共通教育プログラムを考える」

記念講演は、東洋英和女学院大学准教授の塩崎美穂氏をお招きし、「5歳児共通教育プログラムを考える」というテーマで行いました。

まず、塩崎氏が研究し触れてきた世界の保育について、写真や動画を交えながら、それぞれの文化のなかにおける保育の主眼の置かれ方や考え方の違いについて語られました。

保育指針の改定により示された「幼児期の終了までに育ててほしい10の姿」や、保育の中で語られる『主体性』という言葉は、戦後変わらない最低基準の中で保育を行う上で大切なものであること。子どもたちが

「自己を学びとしてみる」過程の中で、「保育者がそれをアセスメントし、可能性に満ちた自己像を形成していく援助をすることが目指される姿である」という言葉に、多くの参加者も気づきが得られたようです。

現在議論が進んでいる「子ども家庭庁」の創設については、新たに就学時期の「架け橋期」についてのとらえ方が示され、新自由主義の中で「質」という言葉が「品質管理の制御テクノロジーである」という管理概念への懸念も示されました。

保育は主体でも客体でも、能動でも受動でもあり得る行為の連続であり、その「質」は型にはまらず、それぞれの子どもによって違う。だからこそ専門家の視点で、私たちが子どもたちを見守り育てる使命があるということで、講演は、私たちの仕事への誇りやモチベーションにもつながったのではないかと思います。



<講演する塩崎先生>



<会場参加もいっぱい>

午後は、保育講座と2つの分科会

☆ 保育講座「保育をおもしろがる」～私の保育実践と保育をめぐる情勢と自治体保育労働者の課題

保育講座の講師は、高橋光幸氏（自治労連保育部会長）。テーマの通り、高橋氏のクラス日より日々の保育、「子どもも大人も楽しむ」活動に聞いている人も笑顔になる内容でした。「おもしろがる」を阻害する要因としての民営化の波や、保育業務のICT化、架け橋期や新しいカリキュラムによって「やらなければならない」保育が増えてしまっている現状に、現場の私たちがすべてを鵜呑みにして実行すべきものではない事、一つ一つの保育が子どもの育ちの視点から見て自信をもって行える内容なのか疑問を持つ大切さが強く語られました。そしてその保育を実現していくためにも運動の力が大切であることがわかりました。

☆ 分科会「公立保育園の民営化・保育の質を守る運動」「労働環境・労働条件の実態と改善運動」の2つ

分科会は、報告とともに交流が盛り上がりました。産別を越えた運動交流は、各自治体の現状や今後の取り組みの中で参考になることも多く、ICT化の問題や職場改善要求の報告では、自分の自治体に持ち帰り運動につなげていきたい内容や、同じような悩みの中での運動の交流ができました。

公立保育園の民営化の波の中で、自治体に働く私たちだけでなく、住民との団結の大切さが実感されました。コロナ禍において、私たち自身もどのように運動をしていくか悩む部分でもありましたが、各自治体の運動の成果を共有したり、次世代育成の報告もあり、それぞれが持ち帰り、運動につなげていくことが出来ると、感じる分科会になりました。



＜久しぶりの対面での分科会＞

☆ 寄せられたアンケートより

保育と哲学とのつながり、哲学のない保育だから、現状があるのだろうなと思いました。子育て保育が投資としてとらえられている今の社会、政治が変わらないといけないのでしょうか。保育運動はそういう意味で新自由主義の強い力からの砦になってきたのかなと思いました。

保育講座に参加しました。保育内容・情勢どちらも学べて学びが多かったです。冊子には分科会の内容の掲載がされていて聞いてみたい内容でした。読んだだけでも他区のことわかり、よかったです。久しぶりの対面での講座でいい時間でした。オンラインのニーズもありますが、対面の良さもありますね。

子ども主体の話でレジメ通りに進まない内容が、最後まで興味が途切れず聞くことが出来て良かった。子どもと楽しんで過ごす。自分も楽しみ、子どもの素敵なところやできることを気づく楽しさを味わっていきたく思った。

